

小須戸公民館報

発行所 小須戸町中央公民館
発行人 成田常信
発行日 毎月15日

謹賀新年

(写真提供 本町一 風間源一郎氏)

ちよこつと一言 (34)

寒いのは雪道を歩いているせいではないのです。つと、顔をそむけて反対側の道路に渡った人。胸の中を冷たい風が通り抜きました。笑顔であいさつを
用意していたのに……。
物の豊かな時代です。お金でも心も買えそうな時代です。でも心も豊かにする事はむづかしい事なのです。そう私を



久保峰子さん

含めて、いつの間にか人生の折り返し点を曲がりました。うしろを振りむくのはきらいな私だったのに、ゴールが見えかくれしそうな地点に達するとふとすぎた日々を思いを馳せているそんな自分に気づくこのころです。これからは少しゆとりと歩きましょう。残りの人生を充実したものにしたいから。

新年あけましておめでとうございます 1991年 年頭のごあいさつ

小須戸町教育長 椿 克己



明けまして
おめでとうございます。

町の各界各層の皆様それぞれに佳いお年をお迎えのことと存じ、謹んで年の甫のお慶びを申し上げます。
今年には近年稀な好天に恵まれた第十九回元旦マラソンも、幼年から八十歳のお年寄りの方で、参加者全員が無事完走され、新年の初日に各人それぞれの目標を達成され有終の美を飾ることができました。参加者各位のご努力を讃え、同時に、激励のご挨拶を頂いた町長・議長並びに議員各位ほか来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。
また、当日各部の役に係わってくださった警察並びに交通指導隊の方々及び、役員各位には元旦早々本当にご苦勞様でした。深く御礼申し上げます。
一年の計は元日に有りとか、町の総ての皆様が、この一年健康づくり体力づくりにもご留意され、無病息災で過ごされるよう祈念致します。
豊田町長は年頭の挨拶で、必ず干支(えと)について話されます。ここでは干支の解説を控えますが、辛(かのと)は十支の八番目、未(ひつじ)も十二支の八番目になります。古来、八は末広がり縁起のよい字と言われます。干支が八八と重なることから、町勢にも皆様の健康とご繁栄にもつながる素晴らしい年になって欲しいものです。

昭和から平成に変わり文字どおり平成を願ったのですが、世界の動きは東欧の政変・ベルリンの壁の崩壊・東西ドイツの合併統一・中近東湾岸情勢の急変と、一触即発の危機を孕み、世界情勢は余りにも目まぐるしい激動の二年間でした。しかもこれからの十年は政治問題・経済情勢・環境問題・民族問題等複雑にからみ合い関係し合っており、二十一世紀を産み出す胎動が直前まで続くものと思われまふ。
町でも二月には町長選挙が行われ、四月には統一地方選挙も行われます。新時代に向けて新しい町の決議機関と、この町にふさわしい町政の担当指導者の実現に期待したいと思います。
「教育は人なり」と言われます。近年、心の時代が叫ばれ、元年には人間関係重視、昨年は心を育てる教育を標榜して来ましたが、町の皆様方の協力・PTA及び「手をつなぐ親の会」ほか各機関各団体のご協力、成果が上がりつつあることは有難いこととあります。
最近、私達の心に「畏れ・うやまい・つつしみ・思いやり」など、我が国古来の伝統に根ざした豊かな心が薄れてはいないでしょうか。
「豊かな心」とは銘々が己れの心に神を宿す事であると考えます。精神的な鎮園政策は既に含めて、いつの間にか人生の折り返し点を曲がりました。うしろを振りむくのはきらいな私だったのに、ゴールが見えかくれしそうな地点に達するとふとすぎた日々を思いを馳せているそんな自分に気づくこのころです。これからは少しゆとりと歩きましょう。残りの人生を充実したものにしたいから。

太陽の子スポーツ少年団 早起き元旦登山に親子三十名



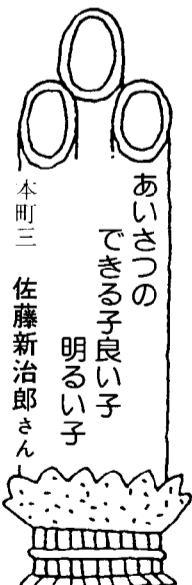
元日の朝日を「初日の出」と言いますが、今年も初日の出を小須戸町の誰よりも先におがもうと太陽の子少年団員が親子揃って護摩堂山に登った。参加者は全体で約三十名。
朝五時三十分中央公民館前と矢代田小学校前にそれぞれ集合して護摩堂登山口で合流。真っ暗な道を歩く。元気を出して歩く。ねむそうなのはお母さんやお父さんの方である。三十分位かけて頂上に到着。空もすっかり明るくなって来た。日の出時間は七時頃だった。太陽が見えるともうにぎやかである。パンサイする子もいる。真顔で手を合せている子もいる。各自で思い思いに初日の出をおがむ。その後、モチを焼いてみんなでぞう煮を食べたあと下山。
今年一年、みんなが健康でありますように。初日の出におがんだ願い事である。

新年明けましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしく願いいたします。

中央公民館長 成田常信

小須戸分館長 岡 謙吾 矢代田分館長 本多 縦
横水分館長 野崎迪夫 新保分館長 川瀬哲治

あいさつ標語入選作品



あいさつのできる子良い子

明るい子

本町三 佐藤新治郎さん

第十九回元旦マラソン大会 九十名が元気に完走

一九九一年一月一日、恒例の元旦マラソン大会が好天に恵まれ開催されました。参加者も八十才のおじいちゃん（これがまた元気元気）から小学生低学年まで幅広く九十名の参加でした。昨年から新設された親子の部も十八組の参加があり盛り上がりました。中には子どもの方がお父さんを抜いてゴールする組もあり拍手の中にも笑い声が絶えない大会でした。終了後、参加者全員で甘酒を飲み、記念品をもらい閉会しました。

優勝 斉藤秋男・裕也組
13分21秒（矢代田十）
二位 木伏道雄・寛子組
13分40秒（矢代田十）
三位 武田敬幸・雅弘組
13分41秒（横川浜）
小学生男子（四年～六年）
優勝 古川欣也11分21秒（小向）
二位 土田裕之11分36秒（天ヶ沢二）
三位 城丸浩志11分37秒（矢代田十）
小学生女子（四年～六年）
優勝 木伏祥子12分24秒（矢代田十）
二位 古川幸恵12分45秒（矢代田三）
三位 土田貴子13分24秒（天ヶ沢二）
中学生男子
優勝 石黒直之21分39秒（新保三）
二位 齊藤 匠22分13秒（諏訪町二）
中学生女子
優勝 山本早苗23分41秒（竜玄）
二位 渡辺直子25分06秒（新保二）
三位 吉田美穂28分50秒（盛町一）
高校・一般男子
優勝 加藤幸治17分09秒（新津市）
二位 日黒政行18分33秒（新津市）
三位 松原俊昭18分44秒（白根市）



お正月用の 凧を作ったぞ!!

親子チャレンジ教室、十二月のチャレンジは「お正月にあげる凧を作る」でした。お父さん、お母さん、みんなでワイワイいって作りました。えっ、無事にあがるのか？、それは、たぶん大丈夫だと思えます。



おめでたい!! 家庭婦人剣道初段に四人合格

小須戸町は柔剣道人口が多い町らしい。とりわけめずらしいのは婦人剣士が十人いるのである。十人中九人はご婦人である。その内の四名が昨年みごと初段に合格した。（三段目指している人も数人いる）婦人剣士は子供が剣道をやっているその影響で始めた人ばかり。「練習はつらいけど、汗を出せて気分爽快。健康にいいし、友達もできた」と、プラスになる事ばかり。白い道着にはかまはかっこいい。美容と健康にあななまじら。

初段合格者 馬場隆子（新保一） 会田智子（横川浜） 中村正子（田上町） 清野美津子（新津市）
三段合格者 風間 裕輔（若葉町一）

図書だより

〈新刊図書ご案内〉

新選・歌枕 第一法規出版
銀河宇宙オデッセイ 6・7 日本放送出版
新潟をどうする 新潟日報社
今「緑」が危ない 学習研究社
41歳の寿命説 西丸震哉
現代の日本画 平山郁夫
現代の日本画 東山魁夷
にいがた大紀行 新潟日報社
マンガ日本の歴史13 石ノ森章太郎

備し物 蔵ご案内

生かがい講座
「歳をとるのは楽しいね」
期日 一月二十五日（金）
午後一時三十分より
会場 福祉センター二階大広間
お話し 長島忠昭先生（新津クリニック院長）
主催 小須戸老連、中央公民館

リントフル収集状況

小柳綾子様（横川浜）
穂原れい様（東京都）
土田孝雄様（糸魚川市）
1月1日現在
17.2 kg

次の方々が図書室に図書を寄贈下さいました。ありがとうございます。
優勝 石黒直之21分39秒（新保三）
二位 齊藤 匠22分13秒（諏訪町二）
中学生女子
優勝 山本早苗23分41秒（竜玄）
二位 渡辺直子25分06秒（新保二）
三位 吉田美穂28分50秒（盛町一）
高校・一般男子
優勝 加藤幸治17分09秒（新津市）
二位 日黒政行18分33秒（新津市）
三位 松原俊昭18分44秒（白根市）

ふんせくと散歩 (45)

良寛さまは昔、よく小須戸に訪れていたらしい。特に馬市がある日と三日、八日の小須戸市には例の破れた衣と鉢を持ってひょうひょうとした姿を見せていたという話である。良寛さまは馬が大好きらしく鉢を忘れて一日中馬を眺めている事もあったとか。今回は小須戸に残る良寛さまの話である。

良寛さまは、今の戸石から渡し舟で小須戸に来ていたが船頭はお坊さまという事で渡し賃をとらなかつたという。良寛さまもその好意にあまえていたが、

護者同伴のこと 申込 参加料を添えて中央公民館へ

寒稽古のご案内
期日 一月二十一日（月）から
一月二十七日（日）まで
会場 剣道 小須戸中体育館
柔道 柔剣道場
時間 午後六時二十分から午後九時（但し剣道小中学生は午後八時三十分終了）
開会式 初日に合同で中学校体育館にて午後六時三十分より
納会 最終日の午後九時より各会場にて紅白試合を行います。
閉会式 納会終了後、午前十時四十分より中学校体育館にて
主催 小須戸町柔剣道振興会

民謡保存会二十周年記念 民舞発表会

期日 二月十七日（日）
午後十二時三十分開演
会場 中央公民館三階ホール
特別出演 西崎流日本舞踊教室
楽結会、矢代田友好会
主催 小須戸町民謡保存会
後援 小須戸町民謡連盟、小須戸町文化協会、中央公民館

無理やり屋敷につれていき 「銭は好きだけれど、やるから 是非何か書いてくれ」と強引に 頼みこんだ。良寛さまは一枚の 紙の前に坐ると無言で「迷惑」と 二文字書いて逃げ去ったとい う。

人を見下し、金や権力で人間の意志や人格まで自由にする事ができると思いがっている傲慢さを心憎く思ったのだろう。



横川、加藤米二氏所蔵良寛像

小須戸川柳会 題「正月」

癖のない活字の質状で義理を立て
お正月年甲斐もなく酒びたり
志望校絵馬に重たい初もうて
お年玉子の胸算用はケタ違い
宝くじ初夢からも見放され
一年のロマンを飾る初日記
湾岸の平和を祈る年が明け
正月になれば鬼はもう来ない
重箱が年に一度の顔を見せ
松の内終ってからのグイェット
お雑煮と年賀の便り春が来る
杵の音も忘れバックの鏡餅
初詣更に健康祈ります
喜寿過ぎて正月無口の恵比須顔
松過ぎて妻の手綱が見えてくる
おみくじの吉が買わせた福袋
暮からの手抜き夫婦の寝正月
吉田みな

短歌クラブ作品

通知票吾れに耳打つ孫の髪に五重九指は押
えつけゆく 高橋キヨ
煮茶を煮つにおいたちこも厨なかいとかすか
なる逢雷をきく 村山 睦
恙がなく新年迎へこの年も歌を詠まむと己に
ちかふ 佐藤新治郎
時雨ふる刈田に棠山子のうらぶれて人の心の
靨さを見る 河内ヒロ
新しき年の始にうから等の吉事構りぬ諏訪の
社に 我妻清作
壇上にて大正琴を合奏せる母の指先いきいき
とせり 小林芳子

十二月例会作品 小須戸町俳句同好会

人間を演じてをりぬ豆を打つ
住きことへ旅立つ秋の虹二重
寺四つ村八十戸批把の花
消えかかる遠嶺に時雨移りけり
スーパに駐込み時雨のがれけり
銅線の青き炎の焚火かな
旅先で買う宝くじ小六月
寺にまた新らしき菩提の花
あまりにも若き母逝く批把の花
岩肌にも雪の来て「ハッ」倉岳
墨油浮く硯海やハ一の忌
難聴や冬の噴水高からず
内山越樓

教室作品 俳句

風に飛ぶ落葉浮かべて水たまり
還暦の旅授かりて落葉ふむ 荒木愛子
京染めの色にも似たる柿落葉 村木りつ
山茶花や螢ぶき屋根のそば処 藤井レイ
家族して来た故郷の山眠る 花沢いせ子
美術館出て冬の陽を背に受けり 渡辺信子

吉田素糸 中野太浪 吉田ミナ 田中美根子 小林富沙子 名古屋蒼穹 丸山虚秋 間島秀穂 五十嵐香月 佐久間久子 間野良遊 内山越樓